

# セントルイス留学記

徳島大学 高田 洋一郎

2015年3月末から6月末までの3ヶ月間、アメリカはミズーリ州セントルイスにある Washington University in St. Louis の Lawrence G. Lenke 先生のところへ留学に行かせていただきました。

これまで留学の経験はありませんでしたが、過去に留学に行かれた先輩の先生方からいろいろな苦勞話を聞いていました。「生活のセットアップに3ヶ月はかかるよ」、「免許とるのに何度も手続きをやり直しされた」、「アメリカ人はいいかげんよ」などなど。そこで、今後3ヶ月くらいの短期で留学する先生の参考になればと思い、思いついた点を紹介したいと思います。

まず、アメリカで生活するには車が必須です。車を購入することも手間がかかるし、運転免許取るのも手間なので国際免許&レンタカーで3ヶ月過ごすことに決めました。とは言っても、レンタカーの値段も半分は保険費用なので、何とか安く仕上げるために地元の保険会社

とレンタカー用の保険を契約して、本来のレンタル額の半額で借りることができました（それでも1000\$ / 月）。レンタカーは Enterprise にしました（本社がセントルイスにあります）。電話は Hana-cell という日本人がアメリカで経営している会社と契約しました。後から思えばプリペイドSIMでも全く問題なかったかもしれません。ビザは問い合わせしましたが、3ヶ月なのでJ-1ビザは不要で、観光/ビジネス用のB-1ビザで半年間滞在できるもの取得了しました。住居に関しては、セントルイスは治安が悪いと聞いていたので、2月に三代先生とセントルイスを下見がてら訪れ（本当の目的は Live surgery です）、治安の良い、官公庁がある行政区画にあるマンションに決めました。銀行口座も短期間では作るメリットもないだろうということで、口座は作りませんでした。なので、住むところは家賃をクレジットカード払いができるとうことで選びました。ガス、水道、電気は家賃に含まれていましたが、自分で電話連絡する必要がありました。長期に留学する場合とは違うポイントが多々あると思いますので、今後、短期留学される先生がおられたら、ご連絡いただければと思います。

さて、肝心の留学ですが、Lenke 先生は第3水曜に成人の外来と第4水曜に小児の外来をまる1日ずつするだけで、その他の日はすべて手術日です。小児脊柱変形の手術を St. Louis Children's Hospital で、成人脊柱変形を Barnes & Jewish Hospital でそれぞれしていました。チームメンバーは非常に洗練され、全員がそれぞれの役割

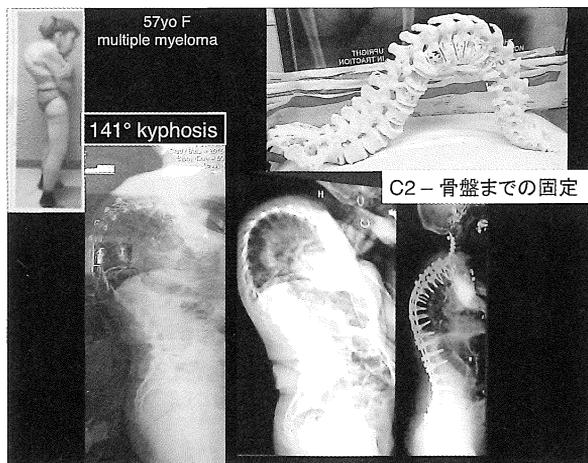


写真1

をきっちりこなして、手術がよどみなく進行していました。これは日本の他の病院を見学に行った時も思ったことです。やはり、脊柱変形の手術は専門のチームが必要なことを痛感しました。通常の椎弓根スクリューを挿入するにしても、プロービング開始から挿入完了まで1分くらいです。これは習熟したスタッフがいるからこそなせる技だと思います。

4月～6月末までの留学ということでしたが、7月1日からLenke先生がNew Yorkに転勤するということが決まっており、週の後半～土日にかけては打ち合わせなどで不在にすることが多く、3ヶ月間での手術件数は30件近くでした。Lenke先生不在時はDaniel Riew先生の手術を見学したりもしましたが、Riew先生も同様にNew Yorkに転勤することが決まっており、6月まるまる不在という状況でした。数少ない見学した手術の中でも、もっとも印象に残っている手術は、見学し始めて2例目の多発性骨髄腫による141度！の後弯変形の症例です(写真1)。C2から骨盤まで固定するという手術も印象に残っていますが、もっと印象に残ったことがあります。頸椎のロッドと胸腰椎のロッドをドミノコネクターを使ってうまく連

結できずに難渋しているときに、Lenke先生が「Son of a bitch! Who made it!」(「ちくしょう、誰やこれ作ったん!」みたいな感じでしょうか)と叫んでました。温厚そうなLenke先生がそんなことを言うのにおどろきました。他にも、棘突起に刺したMEPモニター刺激電極同士がショートし、火花がガーゼに引火して、術野のTh2/3辺りでガーゼが黒焦げになって煙がでて火事になって慌てて消していたこともありました。

小児の脊柱変形はほとんどが症候性側弯やneuromuscular側弯で、術前に3週間のHalo-gravity牽引をしてから手術するような例が多かったです。もちろん、思春期特発性側弯の手術も数例あり、ロッドの扱い方、矯正の仕方など様々なテクニックを勉強させてもらいました。

滞在中は色々な場所にも観光に行きました。セントルイス周辺(といっても400キロ圏内)の都市(シカゴ、ルイビル、メンフィス、カンザス)には車で出かけ、ニューヨークには殿谷先生に会いに、デトロイトにはGoel先生に会いに行きました(写真2)。信州大学からセントルイス留学中の城下智先生には、同い年と言うこともあり到着日にも空港まで迎えに来てくれたり、時間をみつめてゴルフに行ったりと大変お世話になりました(写真2)。

手洗いもせずに見学だけで3ヶ月も耐えられるかなと当初は思っていたのですが、全然そんなことはなく、今まで見たこともないような手術ばかりでしたので、3ヶ月ではまだまだ足りなかったというのが正直なところでは。

今後は学んできた知識を生かして脊柱変形の治療に関わっていきたいと思っています。最後になりましたが、このような貴重な経験の機会を与えていただいた西良先生、留守中にお世話になった脊椎グループの先生方(特に阿部先生)、医局の先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。



Pevely Farms Golf Clubで  
城下智先生と  
途中から合流してきた  
近所のおっちゃんJimも。



殿谷先生と New Yorkにて